



「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」説明会を開催

■アジアサテライトキャンパス学院



プログラム説明会の様子

アジアサテライトキャンパス学院が実施する「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」の説明会を、モンゴルの関係機関及び応募希望者を対象に、オンラインで開催しました。

まず、松尾総長から、東海国立大学機構の設立、モンゴルにおける本学の活動及び同プログラムの趣旨の説明をしました。

その後、エンフアムガラン ロブサンツェレン モンゴル国教育科学大臣、小林弘之

モンゴル国駐劄特命全権大使及びオチルホヤグ バヤンジャラガル モンゴル国立大学長から、モンゴル国における本学の活動に対する謝意がありました。

さらに、モンゴルのサテライトキャンパス事業に参画する高井次郎教育発達科学研究科長などが、同研究科の紹介やプログラムの応募資格等の説明をしました。

当日は約150名の参加者があり、コロナ禍で活動が制限されている状況が続く中での貴重な交流の機会となりました。



ブレイクタイム

げんさいカフェ シリーズ「東日本大震災から10年」を開催

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、今年で10年を迎えます。毎月開催している「げんさいカフェ」では、減災館の特別企画展「東日本大震災から10年—必ずやってくる南海トラフ地震にどう備えるか」との連携企画として、東日本大震災以降10年間を振り返り、将来の南海トラフ地震に備えを進めるための取り組みについて知る企画を3回にわたり、オンラインで開催しました。

12月2日は、富田孝史大学院環境学研究科教授が津波への備えについて、1月6日は、福和伸夫減災連携研究センター長が災害の歴史及び南海トラフ地震対策の全体像について、3月1日は、野田利弘同副センター長が地盤災害について、それぞれ最先端の知見や国・自治体の対策などを紹介しました。また、ファシリテーターを務める隈本邦彦同センター客員教授との意見交換を通して理解を深めました。



講演する富田大学院環境学研究科教授



講演する福和減災連携研究センター長



げんさいカフェの様子
(左から隈本同センター客員教授、野田同副センター長)

第4回東海国立大学機構経営協議会を開催

2月15日、第4回東海国立大学機構経営協議会を開催しました。

会議では、国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況、糖鎖生命コア研究所の設置、令和3年度予算案、中期目標・中期計画の変更及び医学部附属病院の新型コロナウイルス感染症への対応等について審議・報告が行われました。

次いで、松尾機構長及び森脇副機構長から第4期中期目標期間に向けた状況について説明があった後、活発な意見交換が行われました。